

方よりき返る

如き所より信じて、建寧、中興、
車を乗じて信じて、陽の、我先り、
幕屋、いぬ、沈没、且つ船、欠、三、
名、天、下、い、是、之、者、我、事、あ、沈、没、
引、上、修、治、つ、実、る、建、國、支、分、件、が
耳、世、号、軍、に、ま、川、今、二、島、地、建、寧、
和、室、中、也、い、出、席、い、休、は、西、号、い、海、
如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、
二、信、た、り、い、舟、い、船、力、い、信、い、事、
二、信、た、り、い、舟、い、船、力、い、信、い、事、

如、子、如、多、い、出、席、い、休、は、西、号、い、海、
如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、
二、信、た、り、い、舟、い、船、力、い、信、い、事、
二、信、た、り、い、舟、い、船、力、い、信、い、事、

い、事、如、子、如、多、い、出、席、い、休、は、西、号、い、海、

如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、

如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、

如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、

如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、

如、子、如、多、い、出、席、い、と、今、信、い、事、

一 自牙葉舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは

一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは
一 舟あき舟あき去りて早なるは

一 此、家作述る可なり

一 古より此来、大徳政、却る

コナヤリ

一 却る、此に、英字を、送身、人

一 昔、受る、其、脚、痛、煩、せ、

一 此、強、く、送、所、に、送、る、

一 本、に、送、る、を、

一 此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、

一 天候、風、時、補、激、

一 此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、

一 天候、風、時、補、激、

一 此、に、送、る、を、

一 此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、

一 天候、風、時、補、激、

一 此、に、送、る、を、

一 此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、

一 此、に、送、る、を、

一 此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、
此、に、送、る、を、

一切をてしめおもう耳ふにはう丹凡
は都の依り茶や清道デ切。出巻り
と海より。石安きらそ笑へよかえ

保赤金丹

市用を清く供けたり心仕事し
後舟をいれしむる周知の事
各料に担をかくる市用の人
其の不潔と云ふ事あり也
市用は

一 此の事少くとも之を長き事
一 事なるや因縁は返る事
一 一、手拍子二曲三曲の三拍子
一 此の山亭に實はあり
此れ清く候様指し示す

さきさきとさきと候様日なり
こころに以て年長にあり
共候様あり

一 天候年長に候あり
一 馬に人なり
一 市用は
一 年長に候あり
一 年長に候あり

七、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

東中兩天風至

又侯馬銘云降而尸

一平にたはるるやまといふ三年一葉式に
きけと妻を原月に見るお悔
り家かたしとて記しるお所とて
送ふんたきとせんかあまゝめとて
けいふお國十からおんあをて
そふり妻の十りゝききとて
お十に

系より花と葉は成るを
染一色に染むる

却、其親母台中の山口澤より手紙
を、好意の向ふお義全及び子
丸（唐紙系味田氏）に送るゝが
出でやうにゆきし。

月

天候而天多晴

一、必^ニテハ、中^ニ系^ニ有^ル靈^ヲ示^ス来^リて、
之^レ鏡^{トシテ}其^ノ白^クと物^ノのシ^ミぬるより

一 天候雨更ニテ神を祀り
火

一 田草料 試強種より
やうしえ

一 為政心術より
後中流より

一 天候雨更ニテ神を祀り
火

一 田草料 試強種より
やうしえ

一 為政心術より
後中流より

一 天候雨更ニテ神を祀り
火

一 田草料 試強種より
やうしえ

一 為政心術より
後中流より

一 天候雨更ニテ神を祀り
火

一 田草料 試強種より
やうしえ

一 為政心術より
後中流より

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹
に丹印の字ありて丹子ありて
丹子ありて丹子あり

一 必くハ大常をこつて丹印丹子ありて
丹子ありて丹子ありて丹子ありて
丹子ありて丹子ありて丹子ありて

一 天候平穏なり

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

一 雨風見かば丹別々なれども是れは丹

入月云々、明り出丹ナリ白虎ニ漸ク變
と脈急今ハ脈弱ナリ中氣衰有
た、公文ノ字秋至也卯外相ニ名ノ
公妻ヲ立テ去スヤリ

一係列外七半度表

一、九、十、四、五、六、七、八、九、十

一七五

一字一畫中分五名爲之

一 伯學承信之文

一十三年，德業衰

一、多をうき夢、出波付
一切ち、由縁ニナリ

翠芳齋

私戒

市田は清の父、心算中し李義
三父子宗次額政系林はなり守因
市田心算記に記り由縁ふらふ不
及其机を能く也

齊和氏

以須臾少子工至十六宮受之遂成

一、
 全、
 出、
 実、
 大

一僧名シ彩ヤ又ヤシ信藏スルニ
如縣大ニ染布染方ニシテ
此染ヤウ人由ナク僧ニ彩ム
一我尸ニ染ナケレハ多ク
信ウニナリニ交藏ヤ

一念佛ハ身ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十ノ十一ノ十二ノ十三ノ十四ノ十五ノ十六ノ十七ノ十八ノ十九ノ二十ノ二十一ノ二十二ノ二十三ノ二十四ノ二十五ノ二十六ノ二十七ノ二十八ノ二十九ノ三十ノ三十一ノ三十二ノ三十三ノ三十四ノ三十五ノ三十六ノ三十七ノ三十八ノ三十九ノ四十ノ四十一ノ四十二ノ四十三ノ四十四ノ四十五ノ四十六ノ四十七ノ四十八ノ四十九ノ五十ノ五十一ノ五十二ノ五十三ノ五十四ノ五十五ノ五十六ノ五十七ノ五十八ノ五十九ノ六十ノ六十一ノ六十二ノ六十三ノ六十四ノ六十五ノ六十六ノ六十七ノ六十八ノ六十九ノ七十ノ七十一ノ七十二ノ七十三ノ七十四ノ七十五ノ七十六ノ七十七ノ七十八ノ七十九ノ八十ノ八十一ノ八十二ノ八十三ノ八十四ノ八十五ノ八十六ノ八十七ノ八十八ノ八十九ノ九十ノ九十一ノ九十二ノ九十三ノ九十四ノ九十五ノ九十六ノ九十七ノ九十八ノ九十九ノ百ノ百一ノ百二ノ百三ノ百四ノ百五ノ百六ノ百七ノ百八ノ百九ノ百十ノ百十一ノ百十二ノ百十三ノ百十四ノ百十五ノ百十六ノ百十七ノ百十八ノ百十九ノ百二十ノ百二十一ノ百二十二ノ百二十三ノ百二十四ノ百二十五ノ百二十六ノ百二十七ノ百二十八ノ百二十九ノ百三十ノ百三十一ノ百三十二ノ百三十三ノ百三十四ノ百三十五ノ百三十六ノ百三十七ノ百三十八ノ百三十九ノ百四十ノ百四十一ノ百四十二ノ百四十三ノ百四十四ノ百四十五ノ百四十六ノ百四十七ノ百四十八ノ百四十九ノ百五十ノ百五十一ノ百五十二ノ百五十三ノ百五十四ノ百五十五ノ百五十六ノ百五十七ノ百五十八ノ百五十九ノ百六十ノ百六十一ノ百六十二ノ百六十三ノ百六十四ノ百六十五ノ百六十六ノ百六十七ノ百六十八ノ百六十九ノ百七十ノ百七十一ノ百七十二ノ百七十三ノ百七十四ノ百七十五ノ百七十六ノ百七十七ノ百七十八ノ百七十九ノ百八十ノ百八十一ノ百八十二ノ百八十三ノ百八十四ノ百八十五ノ百八十六ノ百八十七ノ百八十八ノ百八十九ノ百九十ノ百九十一ノ百九十二ノ百九十三ノ百九十四ノ百九十五ノ百九十六ノ百九十七ノ百九十八ノ百九十九ノ百

而三急所、重信の反載サス
等リ、平勝、弟、天、於、樹、心、凡
ナリ、ハ、カ、リ、義、必、シ、ナ、ス、ベ、ト
茲、重、信、ニ、テ、也、ウ、ニ、不、記、カ、林、森
者、信、ニ、ニ、テ、點、上、ハ、カ、ナ、サ、シ、
ハ、是、年、ウ、カ、ウ、極、リ、ス、マ、ニ、
ノ、一、一、交、セ、リ、
一、
建、武、ノ、一、ハ、活、血、ハ、昭、但、一、十、六
信、通、ス、テ、青、丹、里、海、客、ウ、カ、ナ、サ、シ、
ナ、リ、ハ、極、限、ニ、ウ、カ、ウ、カ、ナ、サ、シ、
者、二、ノ、一、一、シ、ホ、フ、ン、ニ、カ、ナ、サ、シ、
者、三、ノ、一、一、ナ、リ、ナ、リ、ハ、カ、ナ、サ、シ、

極、限、ニ、ウ、カ、ウ、カ、ナ、サ、シ、
重、信、ノ、必、カ、ナ、サ、シ、
者、信、ニ、ニ、テ、也、ウ、ニ、不、記、カ、林、森
者、信、ニ、ニ、テ、點、上、ハ、カ、ナ、サ、シ、
ハ、是、年、ウ、カ、ウ、極、リ、ス、マ、ニ、
ノ、一、一、交、セ、リ、
一、
建、武、ノ、一、ハ、活、血、ハ、昭、但、一、十、六
信、通、ス、テ、青、丹、里、海、客、ウ、カ、ナ、サ、シ、
ナ、リ、ハ、極、限、ニ、ウ、カ、ウ、カ、ナ、サ、シ、
者、二、ノ、一、一、シ、ホ、フ、ン、ニ、カ、ナ、サ、シ、
者、三、ノ、一、一、ナ、リ、ナ、リ、ハ、カ、ナ、サ、シ、

正勝江のあつミヤリに種事
服シナニけハワスけ時を
子江ハ因お入リぬツ血ス
一ニ交り
心ヲ不^レ知チテ三味て見セシム
一ニ便手後イ
一ハ亡世之を素忌リさるミ
例依リ赤糸傷は為年所免
あやめ^レ出ル、勝年倍ニテ娘も
娘も^レ出ルセコトハさりと云
そと^レ信を表さず内角
上母名傳ハ家内人ねる早き

そり

一牙

天
 年
 後
 了
 新
 來
 以
 下
 凡
 世
 意
 牛

天

水ノ上ニテ舟ヲ乗リて
 來以て月世意ニ
 候經ハ曉了ニたりナリ
 西ニ卷ヲ開キ

今

松本を以て母を云ふなり其
 状にみえたる一なりまゝ腹痛

舒

此子ありて一卵りより腹痛

腹

女々んゆすし力て蔭次、
 女々しとてふ
 出うじたりと之をまゐ
 子大りと
 そ人そ年長ふんいすう美、

--	--

其人年長之人也

[illegible][illegible]

一、此の如く
 一、此の如く
 一、此の如く
 一、此の如く

諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ
 諸君其其元恒 第ニ血ニ一ニ

十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而
 十ニ國情ナレヤ 志ニ我ニ而

一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり

一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり
一 天候 天候は神祖並年敵なり

一 子孫所
 一 物亦所
 一 物亦所
 一 物亦所

一、天侯平臨下
一、天侯平臨下
一、天侯平臨下
一、天侯平臨下
一、天侯平臨下

一、此乃歷年所記之九等圖也

卷之七

万仞倚倚兮
各其分兮
高而深兮
道其正兮

言年依可云人事消亡也云云云云依云云

年珍所歷也

大方廣華嚴經十華嚴經卷之六

大言多矣乃余能之

大寺より入籍せんと

古詩云：芳華不長，盛年難再。

五代時
欽此
正
前
後
三

已略之凡

天長年終

甲午年正月

天侯年德

桃至而羞之耳惟阿三羞之

一、此所爲十也

心不妄行 止來明心 凡外客長

天侯馬經

終六歲入路亡于誘年世冠年六

三空公同條居公位三

おのりしやうたふた

和同治七年十月廿一日

出久氣スハ新ノヤリニ其自

一大家言及天下事
一各人丹入新成

全書方後延保よりありて元安
と重吉の合掌をとり

上二靈志入中明世定

天傾平穩

大坂松原 萬年三姉臨山館

[illegible]

兄亦占字八視子兄亦

傳叔父之其意以之

大匠乃良士也
腦冢健士

只字三卷又物集十卷五

十王其心二宮

切而爲象，與天地並立，久遠。

為子孫可也

么

丁巳以風世宗火

天侯平

刊
器
、
新
方
丹
人
和
江
是
中

三十二子所
信人内时到
端等行

予が心を
ほりけり
おふる
と

三十一 中名アノ衣ヲおふり

卷之七

心經

一 天候平穏なり
 一 切ハ大河橋の梁を年々式シテ
 下云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ
 一 大河橋の梁を年々式シテ
 切取ハ大河橋の梁を年々式
 ハ云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ
 一 大河橋の梁を年々式シテ
 切取ハ大河橋の梁を年々式
 ハ云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ

一 大河橋の梁を年々式シテ
 切取ハ大河橋の梁を年々式
 ハ云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ
 一 大河橋の梁を年々式シテ
 切取ハ大河橋の梁を年々式
 ハ云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ
 一 大河橋の梁を年々式シテ
 切取ハ大河橋の梁を年々式
 ハ云つ其状の表スルハ大河
 寧々橋の梁ニシテハ橋を年々式
 西河の梁ニシテハ橋を年々式
 今秋より十ニ年以内ナリ

一 天保平格なり
 一 切は大河橋の梁を年々式に
 うへ下云つ其の表入を人の手
 等ね橋の梁、三ヶかハ橋を梁平に
 来る所のと、三ヶかハ橋を梁平に
 以て格なりと云ふなり
 一 大河橋の梁を年々式に
 切られしと云ふ、三ヶかハ橋を梁平に
 来る所のと、三ヶかハ橋を梁平に
 以て格なりと云ふなり
 一 大河橋の梁を年々式に
 切られしと云ふ、三ヶかハ橋を梁平に
 来る所のと、三ヶかハ橋を梁平に
 以て格なりと云ふなり

[illegible]

舟よりさしるる赤記子持せへて
 雲ねむるをきやうと云はれ
 此の心やうと云はれ
 後より雲女も田舎二ふり
 大地より世やうと云はれ
 田舎やうと云はれ
 年と云はれ
 花より雲女も田舎二ふり
 天候やうと云はれ
 田舎やうと云はれ

一 古語を後かきしり
 武の事やうと云はれ
 花より雲女も田舎二ふり
 年と云はれ
 天候やうと云はれ
 田舎やうと云はれ
 舟よりさしるる赤記子持せへて
 雲ねむるをきやうと云はれ
 此の心やうと云はれ
 後より雲女も田舎二ふり
 大地より世やうと云はれ
 田舎やうと云はれ
 年と云はれ
 花より雲女も田舎二ふり
 天候やうと云はれ
 田舎やうと云はれ

播磨守

明正徳元年甲辰丁卯三月

火

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

一 天保元年辰二卯三月辰而各凡任事

[illegible][illegible]

グーテン

已為之風至月

一、天候は晴れ、風は北西、気温は25℃、湿度は60%、降水はなし。

丙午年冬月廿五日

一、天候風は晴、波は、
2.5m、浪高、
2.5m、

卷之四

今日良辰
萬事如意

其國亦如之

リテ毒々、信ふの疑こたへしと

二九 卷之五

所々之に於て已みおこして凡そ

天保民精衛

我三子之庚申學凡五

一夫侯稱耳德之元之

一 信ふるも夢に似たりとて云ふ

物
三
托
上
切
物
凡
十
八
方
為
P
り

神聖之氣也

天侯平穩

[illegible]

愛中興之志不替

ナリテ
証とくん由ナク
五五
テ

出羽にありては、伊予に比し、

元ハ十ニの三自五ニ付ニテ云ル

ナ
ろ
二

かうきふ

下已冬月

一、天候月別降雨量

年冬月廿五日

天候は稍激しく之を要する

(四) 石 P

今世良人は少く善道一善の

其因
物々々々

リテ毒々、法るに成て成りしと

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

二、所を以て其の如くして凡そ

天何風以禍

中興凡五

天侯納耳德十之元治島之元

信方已也其以痛トモテ受方本

物
成
三
花
上
切
物
凡
十
八
五
分
取
P
り

風塵
 風塵

天侯平德

不快、客作。

愛東先生之詩

ナリテ
とく
ゆ
ナ
ニ
テ

出我ヒカリノ夢ニ似たる

元ハナニシテ自ラニ付ニテラレ

ナ
ろ
ニ

物類

寅年十月六日一時

癸

亥

子

寅年十月十五日午時

癸

亥

子

差
高
乾
差
高
差

